

「あなたでもできます！！」 各縣市町村 各首長に

脳脊髄液減少症の要望書を提出し理解を深める事業

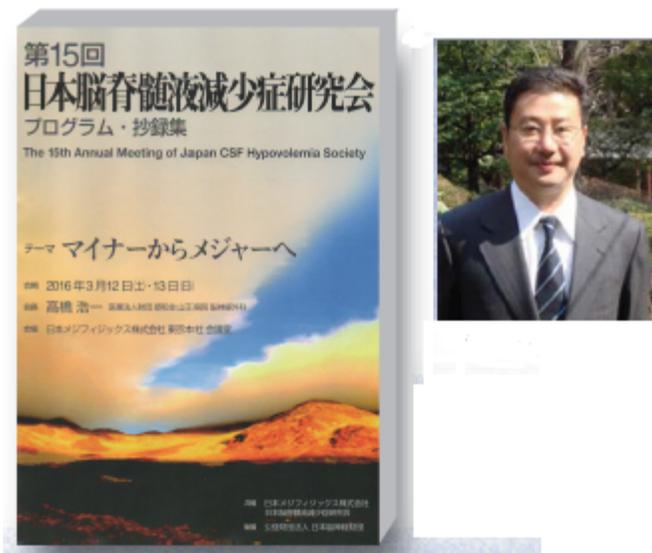
1) 背景と本要望書活動の目的

2月（2016年度2月）、厚生労働大臣の諮問機関であります「中央社会保険医療協議会」が本疾患の治療法ブラッドパッチ療法の保険適用を承認しました。

2016年度、2年連続となります、本事業開始の4月、保険適用が実施されました。そういった状況下での本年度事業開始です。



目的：当会が本疾患である脳脊髄液減少症という病態（軽微な外傷でも脳を包んでいる脳脊髄液が漏れ出して、様々な症状がでる。今まで難病と言われていた、病態の原因の一つである）と訴え活動開始し14年。活動当初は、「髄液が漏れるなんて、減少するなんて、常識ではない」という考えが圧倒的でした。しかし9年の月日を厚労省研究班が費やし、得た治験は「軽微な外傷でも脳脊髄液が漏れるのは稀でない」という判断となりました。



実際、保険適用が決定後の今年の3月東京都内で行われた「第15回脳脊髄液減少症研究会」には、例年の2倍の医師150名が参加。

脳神経外科、神経内科だけではなく、眼科、耳鼻科、泌尿器科、心療内科の医師が多く参加し、「自分たちの領域で説明できなかった症状の原因は脳脊髄液の減少によるものであり、この事実を知っているのは一握りの医師である」と訴えました。未だ、この疾患で悩む全国の患者は数多い。ましてや「世界初、日本発信」の病態です。データを蓄積し世界で今もなお苦しんでいる方にこの疾患の現実を知らしめるのが目的。

2) 他府県の状況と県市町村の要望書雛形

2015年度本事業として「本データベースと県公式HPの相互リンク。そして県主催で医師対象に勉強会を実施し、その中で本データベースを紹介させていただく機会を設けていただきたい」との要望を下記県知事に要望しました。

<都道府県知事版雛形>

脳脊髄液減少症の治療推進及び支援対策を求める要望書

脳脊髄液減少症は、交通事故、スポーツ外傷等、身体への強い衝撃により、脳脊髄液が漏れ続け、頭痛、めまい、吐き気、思考力低下等の様々な症状が発症する病気です。医療現場や交通事故時の保険関係者の無理解により、「怠け病」あるいは「精神的なもの」と判断され、患者及び家族の肉体的、精神的な苦痛は計り知れません。

国においては、平成19年に厚生労働省研究班を立ち上げ、本疾患の研究及び治療法であるブラッドパッチ療法の治験を9年間にわたり行われてまいりました。そして、この度平成28年1月に行われた中央社会保険医療協議会において、患者悲願であるブラッドパッチ療法の保険適用が決定され、4月1日より実施される運びとなりました。

また、9年間にわたり公的機関が行った「外傷を機に発生する、脳脊髄液の漏れ」の治験による診断基準は、世界初であり、日本の各学会の代表が参加し完成したものです。今後世界に広く発信していく価値のあるものとなりました。しかし、この診断基準は、基本であり本格的な脳脊髄液研究の序章でもあります。保険適用後、多くの症例があつまり、更に洗練された診断基準に昇華されるものと期待されています。よって、〇〇県においては、以下の事項について早期に実施していただきたく強く要望いたします。

要 望 事 項

- (1)平成 28 年度、県主催で症例数の多い専門医を呼び、医師対象とした研修会及び意見交換会を実施していただきたい。
- (2)県ホームページに <http://csf-japan.org/>(専用バナー)を記載するとともに、県内全ての病院に対して、脳脊髄液減少症 DB ホームページにアクセスし治療検査の参考データを習得するように働きかけていただきたい。※脳脊髄液減少症 DB ホームページとは認定 NPO 法人脳脊髄液減少症患者・家族支援協会が医師専用の WEB として脳脊髄液減少症の症例数の多い医師と協力し製作したものであり、「脳脊髄液減少症に関わる治療検査のデータや論文、治療方法、検査方法等が動画解説付きで閲覧できるものです。(本年 4 月 1 日より受付開始)
- (3)高・中・小学校に対して、脳脊髄液減少症に関する情報を提供し重症化の予防(水分補給と安静)を行なっていただきたい。
- (4)家庭・地域に対する「脳脊髄液減少症の啓発活動」を市町村と連携していただきたい。
- (5)〇〇県として国に対し「脳脊髄液減少症 無料相談窓口ほっとライン設置」の申し入れをしていただきたい。

平成 28 年 〇月 〇日

脳脊髄液減少症患者支援の会
代表 大平 千秋
〇〇〇県代表 〇〇〇〇
脳脊髄液減少症子ども支援チーム
代表 鈴木 裕子

〇〇県知事 〇〇〇様
〇〇県教育長 〇〇〇様

<市町村長版雛形>

〇〇〇市町村長殿

脳脊髄液減少症の治療推進及び支援対策を求める要望書

脳脊髄液減少症は、交通事故、スポーツ外傷等、身体への強い衝撃により、脳脊髄液が漏れ続け、頭痛、めまい、吐き気、思考力低下等の様々な症状が発症する病気です。医療現場や交通事故時の保険関係者の無理解により、「怠け病」あるいは「精神的なもの」と判断され、患者及び家族の肉体的、精神的な苦痛は計り知れません。

国においては、平成 19 年に厚生労働省研究班を立ち上げ、本疾患の研究及び治療法であるブラッドパッチ療法の治験を 9 年間にわたり行われてまいりました。そして、この度平成 28 年 1 月に行われた中央社会保険医療協議会において、患者悲願であるブラッドパッチ療法の保険適用が決定され、4月1日より実施される運びとなりました。

また、9年間にわたり公的機関が行った「外傷を機に発生する、脳脊髄液の漏れ」の治験による診断基準は、世界初であり、日本の各学会の代表が参加し完成したものです。今後世界に広く発信していく価値のあるものとなりました。しかし、この診断基準は、基本であり本格的な脳脊髄液研究の序章でもあります。保険適用後、多くの症例があつまり、更に洗練された診断基準に昇華されるものと期待されています。よって、〇〇県〇〇市においては、以下の事項について早期に実施していただきたく強く要望いたします。

要 望 事 項

(1) 市公式ホームページに <http://csf-japan.org/>(専用バナー)を記載するとともに、市内全ての病院に脳脊髄液減少症データベースホームページにアクセスし治療検査の参考データを習得するように働きかけていただきたい。

※脳脊髄液減少症データベースホームページとは認定NPO法人脳脊髄液減少症患者・家族支援協会が医師専用のWEBとして脳脊髄液減少症の症例数の多い医師と協力し製作したものであり、「脳脊髄液減少症に関わる治療検査のデータや論文、治療方法、検査方法等が動画解説付きで閲覧できるものです。

(本年 4 月 1 日より受付開始)

(2) 高・中・小学校に対して、脳脊髄液減少症に関する情報を提供し重症化の予防(水分補給と安静)を行なっていただきたい。

(3) 家庭・地域に対する「脳脊髄液減少症の啓発活動」を県と連携していただきたい。

(4) 〇〇市として国に対し「脳脊髄液減少症 無料相談窓口ほっとライン」設置の申し入れをしていただきたい。

平成 28 年 〇月 〇日

脳脊髄液減少症患者支援の会

代表 大平 千秋

脳脊髄液減少症子ども支援チーム

代表 鈴木 裕子

〇〇〇市在住 〇〇〇 〇〇

認定 NPO 法人

脳脊髄液減少症患者・家族支援協会

代表理事 中井 宏

昨年日本財団助成事業でおこなわれた各県 知事要望(データベースホームページ協力依頼)のご報告



2015.9.17広島



2015.10.21高知



2015.10.22岡山



2015.10.22香川



2015.11.2長崎



2015.11.12富山



2015.11.28山口



2015.11.30鳥取



2015.12.7兵庫



2015.12.11千葉



2015.12.22愛知

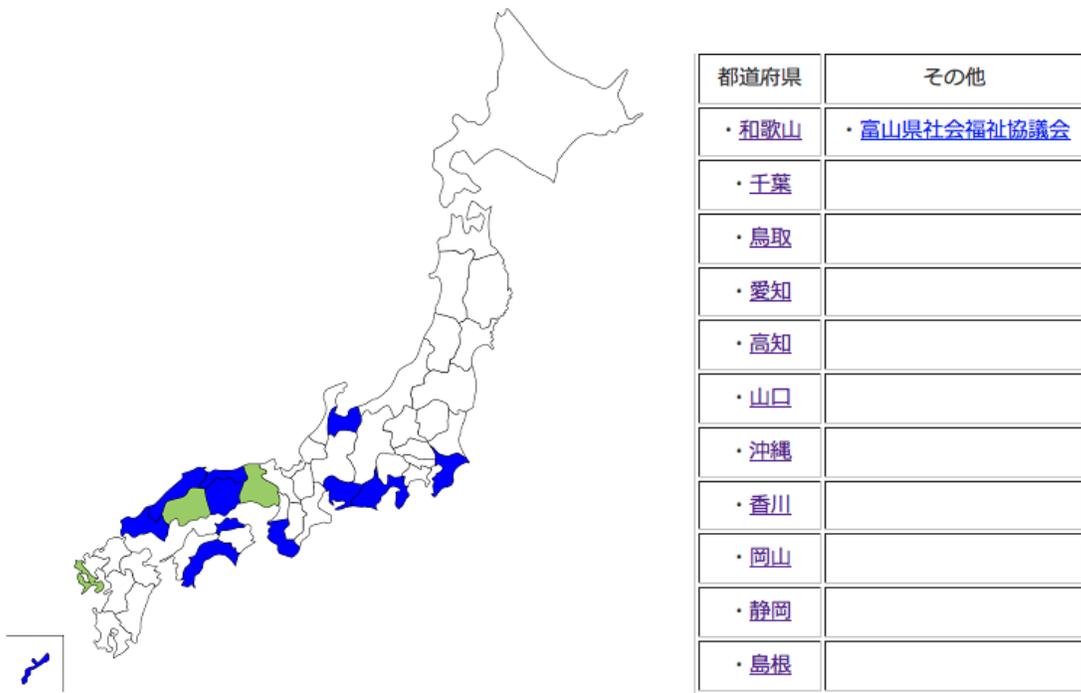
上記写真以外でも沖縄・静岡・島根そして本年度 2016 年度事業でも和歌山県に要望。 トータル 15 県に要望した事になります。

※和歌山県では知事が全面協力を申し入れてくださり、年度内に知事と中井、もしくは担当責任者（部長）が地元 TV に出演し脳脊髄液減少症データベースを紹介する事になっている。



本年度にはいり、その要望が少しずつ結果となり出始めています。
 下記 日本財団ロゴ入りバナーが行政ホームページへ貼る為に行政側と再三にわたり、交渉をしました。

<相互リンクが貼られた県は日本地図の青色の県>



緑色は現在 行政と交渉中であります。
 また行政主導、県主催の勉強会が既に愛知県で行われ、来る7月24日鳥取県、
 8月7日山口県、その他岡山・香川・沖縄・和歌山で開催準備中です。
 中井もしくは行政担当者が脳脊髄液減少症データベースページを紹介する予定
 になっております。

参考 ■愛知県主催 医師対象 脳脊髄液減少症勉強会 5月27日

午後3時より 中京病院大会議室で開催されました

第1部 講義 15:00～16:00

冒頭 県担当者から 脳脊髄液減少症データベースの使用法説明...

(1) 診療報酬について

東海北陸厚生局職員

(2) 脳脊髄液減少症の治療導入・実施について

中京病院池田先生

第2部 実技見学 16:00～16:30

(1) ブラッドパッチ実技

中京病院池田先生ほか

池田先生の素晴らしい講演でした。

写真はブラッドパッチ療法実技の様子



3) 事業成果2次的効果

厚労省脳脊髄液減少症研究事業 第二期が決定しました。

3カ年計画で実施されます。

昨年完成した診断基準では全体患者の20%ほどが対象で、特に子供例などはほぼ基準にあてはまらない厳しいものでした。

そこで残りの80%を対象とした非典型例と小児例の2本柱で研究が開始される事になりました。



■ 平成28年度「認知症研究開発事業」「長寿科学研究開発事業」
■ 「障害者対策総合研究開発事業」の採択課題について 

脳脊髄液減少症の難治化における自律神経機能異常の関与の検討	学校法人埼玉医科大学	荒木 信夫
脳脊髄液減少症の非典型例及び小児例の診断・治療法開拓に関する研究		
脳脊髄液減少症の非典型例の診断・治療法開拓に関する研究	国立大学法人山形大学	嘉山 孝正
小児の脳脊髄液減少症の病態解明、診断・治療法の開発に関する研究	学校法人国際医療福祉大学	篠永 正道

上の図でもわかるように、埼玉医科大神経内科が脳脊髄液減少症の研究費を取得。福島大学でも脳脊髄液減少症の研究費が採択され（参考資料）、様々な角度から研究が開始されようとしています。
これらの医師は全て、冒頭で書きました「第15回脳脊髄液減少症研究会」に参加されています。

<今後の予定とまとめ>

15 県以外の 32 都道府県に対し、同じく要望書提出を開始し、相互リンクと勉強会実施にむけての行政との交渉を始めます。

さらなる安全性が確立するまで

保険適用が新たに決定した治療については最初の 2 年間は厳しい基準のもと治療が実施され、多くの書類を提出しなければならないそうです。

よって保険適用後、爆発的な医療施設の増加は今のところ、ありません。

実際、5月に行われた愛知県主催 脳脊髄液減少症勉強会でも、中部厚生局の保険診療担当者が「ブラッドパッチ療法の開始する基準」について説明をされた時、

「医師から多数の質問と、不満の声が多くでていました」 その大半が「こんな厳しい基準ではなかなか治療できない」などといったものでした。
しかし、明らかに、病気への理解と行政側の対応が一変しました。
行政側もなんとか病院を増やさなければという姿勢を示してくれるようになってきています。
今後も地道な活動が必要。

<展望>

国が脳脊髄液減少症をみとめ診断基準が完成したにもかかわらず、司法の間ではその基準にのった判断がなされず、理不尽な判決が今もなおでております。
司法の間にかぎらず、労災の判断でも同じような事がおきているのです。
労災に関しては同じ厚労省内で管轄するにもかかわらず、厚労省が作成した診断基準に準拠せず、労災が決定通知をだしているのは信じられない状況です。
今後そういう問題点も国会の間において超党派で議会質問を行うように働きかける予定です。

そして何よりも篠永教授が小児例の研究のトップになり、この脳脊髄液減少症データベースが全国の行政との連携でひろまり、世界でもアクセスが増える事で、外国からの影響が出始め数年後は世界単位で大きな成果を出す事は必至です。

*** 要望書を提出する際は、横浜事務所にご相談ください。045-716-4646
都道府県市町村 担当議員をご紹介します。**

参考資料

脳脊髄液減少症の非典型例及び小児例の診断・治療法開拓に関する研究

サイトマップ

お問合せ

- Top
- 研究代表者挨拶
- 研究組織
- 脳脊髄液減少症とは？
- 昨年までの研究概要（更新作業中）
- 調査研究へのご協力のお願い（休止中）
- 過去の研究結果
- 臨床研究参加施設紹介
- 新たな研究について
- 脳脊髄液漏出症の画像判定基準・画像診断基準 (PDFリーダーが必要です)



top page>>研究組織

研究組織

統括研究代表者 嘉山孝正
 ＊成人非典型例研究・小児脳脊髄液減少症研究の統括を行います。

・成人非典型例研究研究代表者 嘉山孝正

・小児脳脊髄液減少症研究研究代表者 篠永正道

＊小児の研究には、成人非典型例研究の研究者も参加します。

＊研究者は、下表をご覧ください。

1.研究者名	2.研究実施場所（所属機関）	3.所属機関における職名	4.現在の専門	5.備考
(統括研究代表者) 嘉山孝正	山形大学附属病院	特任教授	脳神経外科	日本脳神経外科学会代表
(研究分担者) 三隅信啓	札幌医科大学附属病院	教授	脳神経外科	日本脳神経外科学会代表
齋藤洋一	大阪大学病院	特任教授	脳神経外科	
高安正和	愛知医科大学病院	教授	脳神経外科	日本脊髄外科学会代表
宇川義一	福島県立医科大学附属病院	教授	神経内科	日本神経学会代表
有賀 徹	昭和大学医学部病院	名誉教授	救急医学	日本脳神経外傷学会代表
喜多村孝幸	日本医科大学武蔵小杉病院	病院教授	脳神経外科	日本頭痛学会代表
深尾 彰	山形大学医学部	名誉教授	公衆衛生学	
細矢貴亮	山形大学医学部附属病院	教授	放射線診断学	
畑澤 順	大阪大学大学院医学系研究科	教授	放射線核医学	
佐藤慎哉	山形大学医学部附属病院	教授	脳神経外科	研究事務局担当
西尾 実	名古屋市立大学医学部附属病院	研究員	脳神経外科	
篠永正道	国際医療福祉大学熱海病院	教授	脳神経外科	小児脳研究代表者
高橋浩一	山王病院	教授	脳神経外科	小児班
横田俊平	横浜市立大学医学部附属病院	客員教授	小児科	小児班
菅野 洋	国際医療福祉大学熱海病院	教授	脳神経外科	小児班

厚労省研究班組織図

ホーム > 検索から探す > 医療課 > 脳脊髄液減少症の診療が可能な県内の医療機関について

脳脊髄液減少症の診療が可能な県内の医療機関について

読み上げる

和歌山県では、平成20年に県医師会、県病院協会の協力を得て、県内の全病院に対して、脳脊髄液減少症の診療状況に関する調査を行い、脳脊髄液減少症の診療が可能な県内の医療機関一覧（公表することについて承諾）を掲載していましたが、県内での脳脊髄液減少症の診療状況をより詳細に把握するために、県内の全病院に加えて新たに脳神経外科、整形外科、神経内科、麻酔科のいずれかの診療科目を標榜している有床診療所に対しても、脳脊髄液減少症の診療状況に関する調査を行いました。

その結果、脳脊髄液減少症の診療を行っている、また、硬膜外自家血注入（ブラッドパッチ）療法を実施していると回答があり、公表することについて、承諾を得られた医療機関は次のとおりです。

ご利用にあたりましては、「ご利用上の注意」を必ずご覧ください。

■関連する団体へのリンク

認定NPO法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会

CSF JAPAN 脳脊髄液減少症の専門家です。脳脊髄液減少症の最新情報を知っていますか？

Supported by 日本脳脊髄液減少症研究財団 THE NIPPON FOUNDATION

医師専用のホームページです。治療や診断に関する参考データや動画を見ることが出来るサイトです。症例数の多い厚生労働省脳脊髄液減少症研究班所属の医師にアドバイスを求める事ができます。

このページに関するお問い合わせは 和歌山県福祉保健部健康局医療課 【フロアマップ】

和歌山

健康政策課

現在の位置: ホーム > 県の組織と仕事 > 福祉保健部 > 健康政策課 > 健康政策課 > 脳脊髄液減少症について

Twitter いいね!

脳脊髄液減少症について

ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）の保険適用について

平成28年1月20日に開催された中央社会保険医療協議会において、ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）が平成28年4月から保険適用となることが決定されました。

詳細は未定ですが、最新情報については随時お知らせします。

脳脊髄液減少症とは・・・

交通事故やスポーツなどによる衝撃で脳をおおう硬膜に穴があくと、脳と脊髄の周囲を循環している脳脊髄液が漏れて脳の位置が下がり、頭痛やめまい、吐き気などの症状が現れるもの。患者本人の血液を注射し、血液凝固で髄液が漏れた場所をふさぐ「ブラッドパッチ療法」が有効とされる。現在のところ厚生労働省は保険適用を認めていないが、交通事故などの被害者らによって、むち打ちや転倒時の衝撃でも髄液が漏出することがあると主張され始めている。<「健康用語辞典」より>

患者会・支援団体のホームページへのリンク

●NPO法人脳脊髄液減少症患者・家族支援協会(旧名 寝打ち症患者支援協会)

●脳脊髄液減少症・子ども支援チーム

CSF JAPAN 脳脊髄液減少症の専門家です。脳脊髄液減少症の最新情報を知っていますか？

Supported by 日本脳脊髄液減少症研究財団 THE NIPPON FOUNDATION

医師専用のホームページです。治療や診断に関する参考データや動画が見れるサイトで症例数の多い厚生労働省脳脊髄液減少症研究班所属の医師にアドバイスを求める事ができます。

鳥取

所在地 ホーム > 健康・福祉 > 健康・医療 > 緊急医療・医療相談 > 脳脊髄液減少症について

脳脊髄液減少症について

印刷用ページを表示する 掲載日: 2016年5月25日更新

脳脊髄液減少症について

「脳脊髄液減少症」とは、頭部などへの強い外傷により脳脊髄液が漏れ続け、頭痛、頸部痛、めまいなどの様々な症状を引き起こす病気といわれています。

国においては、平成19年度から診断・治療に関する研究班が設置され、平成23年10月に「脳脊髄液減少症画像診断基準・画像診断基準」が作成されています。

関係患者等団体リンク

- ・「特定非営利活動法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会」
- ・「脳脊髄液減少症患者支援の会・子ども支援チーム」
- ・「愛知県脳脊髄液減少症患者家族支援の会」

CSF JAPAN 脳脊髄液減少症の専門家です。脳脊髄液減少症の最新情報を知っていますか？

Supported by 日本脳脊髄液減少症研究財団 THE NIPPON FOUNDATION

医師専用のホームページです。治療や診断に関する参考データや動画が見れるサイトで症例数の多い厚生労働省脳脊髄液減少症研究班所属の医師にアドバイスを求める事ができます。

愛知

脳脊髄液漏出症（脳脊髄液減少症）に関する情報

脳脊髄液漏出症（脳脊髄液減少症）について

「脳脊髄液漏出症（脳脊髄液減少症）」は、脳脊髄液が漏出することにより脳脊髄液量が減少し、頭痛

診断基準

平成23年10月14日、厚生労働省の脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究班がまとめた、

検査・治療等

1. 検査

造影MRI、Ri脳シンチグラムなどの画像診断が主なものです。
平成22年4月から、診断のための検査については、健康保険適用されることになりました。

2. 治療

保存的治療⇒2週間程度の臥床安静、十分な水分補給を行います。
そのほか、硬膜外に血液を注入するブラッドパッチ療法があります。

ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入）とは

硬膜外に患者さん自身から採取した血液を注入し、髄液が漏れていた部分を塞ぐ治療法です。
平成28年4月1日から、施設基準の届出を行った医療機関において保険診療の適応となりました。

香川県内の施設基準届出医療機関

医療機関名	住 所
香川県立中央病院	高松市朝日町一丁目2番1号
香川大学医学部附属病院	木田郡三木町大字池戸1750番地1

医師専用の相談サイト

脳性髄液減少症の診断やブラッドパッチ療法等の治療に関して、下記サイトをご参照ください。

・CSF JAPAN（脳脊髄液減少症ホームページ）



香川

更新日：2016年6月14日

脳脊髄液減少症

「脳脊髄液減少症」は、交通事故やスポーツ外傷などによる衝撃で脳を覆う硬膜に穴が空き、脳脊髄液が漏出することにより、頭痛、頸部痛、めまい、耳鳴り等さまざまな症状がみられる疾患です。しかし、診断基準や治療方法は確立されていないことから、症状に悩む患者さんが本疾患の診療を実施している医療機関に繋がりにくい状況があります。

脳脊髄液減少症についてのご相談

お住まいの青穂保健所に相談下さい。

- ・ 北部医療部 (TEL:0980-32-2704)
- ・ 中部医療部 (TEL:098-938-9700)
- ・ 西部医療部 (TEL:098-889-6945)
- ・ 宮古医療部 (TEL:0980-72-8447)
- ・ △重山保健所 (TEL:0980-82-3241)
- ・ 南重山保健所 (外部サイトへリンク) (TEL:098-853-7962)

硬膜外自家血注入療法（ブラッドパッチ療法）

脳脊髄液減少症の治療として、有効とされている「ブラッドパッチ療法」は平成28年4月1日より保険適用となりました。

沖縄県内硬膜外自家血注入療法（ブラッドパッチ療法）を実施している医療機関(平成25年6月現在)

- ・ 琉球大学医学部附属病院 (外部サイトへリンク)、 西原町字上原207番地
- ・ 医療法人会誠愛救済クリニック (外部サイトへリンク)、 浦添市牧場4-24-7

直接医療機関へご相談、ご予約して下さい。

県外硬膜外自家血注入療法（ブラッドパッチ療法）を実施している医療機関 (外部サイトへリンク)

(49都道府県自家血注入療法参照)

アンケート「沖縄県内における脳脊髄液減少症の診療体制について」の実施及び診療医療機関について (平成22年1月現在)

本県においては県内で「神経内科」、「脳神経外科」、「脳外科」を標榜している医療機関に対して、本疾患の診療状況及びホームページの公表についてアンケートを実施し、公表に同意頂きました診療可能な医療機関を掲載し、患者さんに情報提供いたします。

別紙「脳脊髄液減少症の診療可能な医療機関一覧」にて御確認ください。

※【利用にあたっての注意事項】を必ず御参照下さい。

▼PDF 脳脊髄液減少症の診療可能な医療機関一覧 (101.391byte)

関連リンク

- ・ 脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究班 (外部サイトへリンク)
- ・ CSF JAPAN (外部サイトへリンク)

沖縄

ホーム > 近隣から探す > 健康政策部 > 健康対策部

- 目的から探す
 - 申請・届出・補助金等
 - 資格・試験
 - イベント情報
 - 募集情報
- 組織から探す
 - 総務部
 - 危機管理課
 - 健康政策部
 - 地域福祉課
 - 文化生活課
 - 産業振興推進課
 - 商工労働課
 - 観光振興課
 - 農林振興課
 - 林業振興・環境課
 - 水産振興課
 - 土木部
 - 食料管理課
 - 生活委員会
 - 議会
 - 教育委員会
 - 警察本部
 - 公安委員会
 - 公安委員会

脳脊髄液減少症について

脳脊髄液減少症について

「脳脊髄液減少症」は交通事故やスポーツ外傷等の後に脳脊髄液腔から脳脊髄液（髄液）が特続的ないしは断続的まい、耳鳴り、視覚障害、倦怠などさまざまな症状を呈する疾患とされています。

国においては、平成19年度より厚生労働科学研究費補助金事業として専門家による研究班が設置され、病態の解明や、平成23年10月に研究班より「脳脊髄液漏出症画像判定基準・画像診断基準」が示されました。

[脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究班のホームページ](#)

ブラッドパッチ療法とは

硬膜外に患者本人の静脈から採取した血液を注入し髄液が漏れている部分をふさぐ治療です。

平成28年4月1日から健康保険の適応となりました。

- 硬膜外自家血注入療法 保険診療実施医療機関
 - 高知大学医学部附属病院（脳神経外科） 088-866-5811（代表）

- 医師専用の相談サイト

脳脊髄液減少症の診断や硬膜外自家血注入療法等の治療に関しましては、下記のサイトをご参照ください。



高知



ホーム > 健康・福祉 > 政策 > 健康対策部トップ > 脳脊髄液減少症について

更新日：平成28年6月22日

脳脊髄液減少症（脳脊髄液漏出症、低髄液圧症候群）について

1.脳脊髄液減少症（脳脊髄液漏出症、低髄液圧症候群）の現状

「脳脊髄液減少症（脳脊髄液漏出症、低髄液圧症候群）」は、交通事故やスポーツ外傷などで硬膜外腔から髄液が漏れることにより頭痛や腰痛、めまいなどの様々な症状が生じるとされています。確立された診断基準や治療方法がないため、国において平成19年度から診断・治療の確立に関する研究班による研究事業が行われ、平成23年度に脳脊髄液漏出症画像診断基準・画像診断基準が公表されました。

平成24年5月17日、厚生労働省の先進医療専門家会議は、日本医科大学病院が申請した硬膜外自家血注入療法（根治性回復を有する患者に限るもの）として、脳脊髄液減少症の画像診断基準（社団法人日本整形外科学会、社団法人日本脳神経外科学会、一般社団法人日本神経学会、一般社団法人日本脳神経学会、一般社団法人日本脳神経外傷学会、一般社団法人日本神経外科学会、一般社団法人日本神経病学会及び日本神経病学会が認められたものという。）に基づき実施であると判断されたものという。）を先進医療として承認することを決めました。

また、平成28年4月1日からは、脳脊髄液漏出症（関連学会の定めた診断基準において確実又は疑定された者。）に対する硬膜外自家血注入療法が保険導入されました。

関連リンク

研究班

- [脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究班](#)（[外部サイトへリンク](#)）
- [画像診断（検出診断）実施情報シート](#)（[PDFダウンロード](#)）（[外部サイトへリンク](#)）

関連団体等

- [NPO法人脳脊髄液減少症治療支援委員会](#)（[外部サイトへリンク](#)）
- [脳脊髄液減少症・子ども支援チーム](#)（[外部サイトへリンク](#)）
- [脳脊髄液減少症治療支援委員会](#)（[外部サイトへリンク](#)）
- [脳脊髄液減少症全国ネットワーク会](#)（[外部サイトへリンク](#)）

脳脊髄液減少症を知っていますか？

医師専用のホームページです。治療や診断に関する参考データや動画が見えるサイトで、医師向けに、厚生労働省脳脊髄液減少症研究班所属の医師にアドバイスを依頼することができます。

[（外部サイトへリンク）](#)

静岡

脳脊髄液減少症に関する情報

脳脊髄液減少症に関する医療機関情報 [PDFファイル/104KB]

県内医療機関のみならずへ

脳脊髄液減少症の診療等が可能であり、岡山県ホームページ上に公表可能な場合は、岡山県保健福祉部医業安全課特定保健対策班ご連絡いただいた情報は随時更新します。

関係機関・団体リンク

- 岡山県教育庁保健体育課
<http://www.pref.okayama.jp/site/16/detail-48741.html>
- 広島県保健医療部健康対策課
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/1269398435011.html>
- 鳥取県福祉保健部健康政策課
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=87261>
- 島根県健康福祉部医療対策課
http://www.pref.shimane.lg.jp/kenko/nousekizuieki_genshoushou.html
- 山口県健康福祉部健康増進課
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15200/nanbyou/nousekizuieki.html>
- 脳脊髄液減少症・子ども支援チーム
<http://www.kodomo-cfj-support.net>
- 特定非営利活動法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会
<http://www.npo-aswp.org/>
- 医師専用の相談サイト(CSF JAPAN)
<http://csf-japan.org/>



お問い合わせ先

岡山県保健福祉部 医業安全課 特定保健対策班
電話：086-226-7342(直通)
Fax: 086-224-2133
電子メール: iyaku@pref.okayama.lg.jp

岡山



トップ	防災・安全	観光	子育て・教育
-----	-------	----	--------

トップ > 健康推進課 > 脳脊髄液減少症について

脳脊髄液減少症の診療体制について

- 島根県内で診断・治療が可能な医療機関及び診療実績の一覧表は [こちら](#) (3146KB) (平成27年12月1日現在)
- ※「脳脊髄液減少症に係る診療体制調査」より (回答：50/51病院)

県からのお知らせ

- ブラッドパッチ療法(硬膜外自家血注入療法)が平成28年4月から保険適用になりました。

関連するページへのリンク

- 「脳脊髄液減少症・子ども支援チーム」(外部サイト) ホームページ
- 「認定NPO法人脳脊髄液減少症患者・家族支援協会」(外部サイト) ホームページ



○脳脊髄液減少症研修会の開催について

島根県では、脳脊髄液減少症について広く関係者や県民の方々に理解していただくため、以下のとおり研修会を開催すること

日時：平成24年9月9日(日) 13:30~15:30
場所：くびきメッセ小ホール(松江市学園南1丁目2-1)
内容：[こちら](#)をご参照ください

島根



福島医大、難病の「目印」発見 脳脊髄液減少症の診断に希望

2016年07月13日 11時59分

いいね! 295

シェア

(数字はいいね)

ツイート

1

G+ 1

福島医大の橋本康弘副学長（生化学講座）と斎藤清付属病院長（脳神経外科学講座）らの研究グループは12日までに、難病の脳脊髄液減少症の診断につながる"目印"となる特殊なたんぱく質を発見したと発表した。病気の早期発見や診断精度の向上につながるかと期待される。



脳脊髄液減少症は脳を包む脳脊髄液が減り、頭痛やめまい、耳鳴りなどの症状を引き起こす病気。明確な症状がないことから一般的に診断が難しいとされている。これまでは磁気共鳴画像装置（MRI）やコンピューター断層撮影装置（CT）などに加え、放射性同位体などを使った診断が一般的だった。

橋本副学長らの研究グループは、脳でのみつくられる特殊な型を持ったたんぱく質に着目。脳脊髄液を採取し、このたんぱく質を測定することで脳脊髄液の漏えいが高い精度で判別できる。この研究は、同日までに日本医療研究開発機構の補助事業にも採択された。

課題はたんぱく質の測定に要する時間で、グループによると熟練した研究者でも2日程度かかるとされる。今後は測定機器の開発に取り組む予定で、橋本副学長は「測定機器が完成すれば早期診断や診断精度の向上につながる。また、同様に脳脊髄液の漏えいが起きたむち打ち症の診断にも活用できる」としている。